



財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業

医療 安全情報

No.35 2009年10月

静脈ライン内に残存していた レミフェンタニル（アルチバ） による呼吸抑制

全身麻酔による手術終了後、静脈ライン内に残存していたレミフェンタニル（アルチバ）を意図せず投与し呼吸抑制をきたした事例が3件報告されています。

（集計期間:2006年1月1日～2009年8月31日、第17回報告書「共有すべき医療事故情報」に一部を掲載）

手術終了後、投与が停止した静脈ライン内にアルチバが残存していたため、その後、そのラインを使用した薬剤の投与により、意図せずアルチバを投与し呼吸抑制をきたした事例が報告されています。

◆アルチバの販売は2007年1月より開始されています。

静脈ライン内に残存していた レミフェンタニル(アルチバ)による呼吸抑制

事例 1

手術室で患者に左上肢静脈ラインよりアルチバを $0.2\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$ の速度で投与した後、ヘパリンロックをするために少量のヘパリン入りの生食をフラッシュしてロックした。患者が病棟に戻った後、ロックした静脈ラインより輸液を開始したところ、突然、患者の呼吸が停止した。

事例 2

麻酔担当医は、手術を終了する頃、アルチバの持続投与を終了し、気管チューブを抜去した。その後、輸液ボトルが空になっていることに気づき、新しい輸液ボトルに交換した。回復室に移動中、麻酔担当医が患者の意識消失・呼吸停止に気付いた。直ちに用手的人工呼吸を開始し、患者の意識状態は改善した。輸液ライン内に残存していたアルチバが、輸液ボトルの交換によって急速に過量投与されたことが原因と考えられた。



阪大病院では次のような対策を推奨しています

麻薬やカテコラミン等の循環呼吸に大きな影響のある薬剤の投与を停止した場合は、ルートやカテーテル内に**薬剤の遺残がないことを確認**しましょう。

- ・ルート内を輸液等で**十分量のあとおし**を行きましょう。
(あとおしをしている間は薬剤が投与されることに注意しましょう)
または、
- ・**血液が戻るまで吸引**してからヘパリンロックしましょう。